

平成30年度全国学力・学習状況調査に関する調査結果について（お知らせ）

平成30年10月2日

福岡市立玉川小学校

校長 樋口 信一

4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査に関する本校の調査結果の概要と分析した傾向や課題、今後の取組についてお知らせいたします。

記

1 調査の目的

調査の結果から、本校児童の課題や改善点を見出し、教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるため

2 調査の内容

○ 実施日 平成30年4月17日（火）

○ 教科 国語科，算数科，理科

国語・算数はそれぞれ「A問題」と「B問題」に分かれており、「A問題」は主として「知識・理解」，B問題は主として「活用」に関する内容です。

3 調査結果の概要

本校の各教科の平均正答率は、全国標準と比べて、次のような結果でした。

○国語（A）・・・同程度である

○国語（B）・・・同程度である

○算数（A）・・・同程度である

○算数（B）・・・やや上回っている

○理科・・・やや上回っている

4 分析した傾向や課題

○ 国語Aについて

- ・主語と述語の関係に注意して文を正しく書いたり，登場人物の心情について情景描写をもとにとらえたりすることについては全国標準よりかなり上回っている。
- ・漢字を正しく書くことに課題がある。

○ 国語Bについて

- ・話し合いにおける司会の役割や質問の意図をとらえることについては，全国標準を上回っている。
- ・目的に応じて，複数の本や文章を選んで読んだり，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながらかきとらえたりすることに課題がある。

○ 算数Aについて

- ・二つの数量関係の理解や数直線上に表すことについては，全国標準よりかなり上回っている。
- ・単位量あたりの大きさを求めることや円周率を求める式の理解について，課題がある。

○ 算数Bについて

- ・情報とグラフ，グラフとグラフを関連付けて大事なことを読み取った内容を記述することについては，全国標準よりかなり上回っている。
- ・数量の関係を考察し，分配の法則を用いた式に表すことについて，やや課題がある。

○ 理科について

- ・自然光と光電池の関係をとらえ，適切な処理の仕方について判断することに課題がある。

5 今後の取組

- ・具体的な使い方を含め，反復練習を効果的に取り入れながら，漢字を使うことの確実な定着を図ります。
- ・様々な本や文章にふれることを通して，長文に慣れるとともに，書かれている内容を的確にとらえたり，自分の考えを明らかにしたりする指導を行います。
- ・算数の理解においては，定着を図る補充学習や個別学習を意図的・計画的に行うようにします。